

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して自分らしく生活して頂く」を目標に地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性の強化を謳った理念をつくりあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や申し送り時、場面、々で理念に触れ、スーパーバイズするように心掛け、確認している。ミーティング時には、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月1回のおたよりや講演会のなどで理解して頂けるように取り組んでいる。	○ 今後、民生委員の会合などに出席し、理解をしていただけるように努める。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶し、回覧板を廻したり、近所の畑を作っている人から野菜をいただいたり、日常的な付き合いが出来るように努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭、お祭り、盆踊りには参加し、地域交流を図っている。地元の小学生ボランティアが遊びに来てくれる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生(ヘルパー研修)の受け入れや、認知症の研修などの受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を全職員で共通認識し、職員会議で話し合い、サービスの質の向上に努めている。	○	自己評価する事で己を振り返り、外部評価結果を踏まえ、会議でとりあげてより一層共通認識を持って、取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に、取り組みたいテーマを決め、参加メンバーから質問、意見、要望を受け、その結果を職員会議で話し合い、サービスの向上に生かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議、行事等に参加して頂く様サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	大きな行事には案内状を出し、もっと活動を理解していただけるようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月1回の職員会議・リスク会議等で、勉強会を開き権利擁護の理解を深めるようにしている。必要な時は社会福祉協議会とも連絡を取り合っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスク会議を月に1回開催し、虐待等について話し合っている。また虐待行為を発見した場合、対応方法について事業所内で周知徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>もっと自由発言でき、個人だけでなく、家族会としての要望などの意見を吸い上げられるように、曜日、回数などを考慮した家族会の自主運営を支援していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>離職時、その時期や引継ぎの面で職員皆で話し合い、利用者様に影響がないよう心掛けている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には研修内容により、出張扱いにするなどしている。なるべく多くの職員が受講できるよう情報提供したり、勤務表を作成し、自己啓発を促している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、講演会で知り合った同業者と機会があればお互いの施設の見学会を実施したりしている。名刺交換などをお互いに連絡し交流を持てるよう自己啓発の努力をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護ストレスは存在するものと捉え、スタッフとの信頼関係を築き、日常会話の中で職員のストレス・悩みを聞き、個別にスーパーバイズしたり、会議の議題にあげ、全員の意見で解決策を探る努力をしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるよう職能評価を定期的に行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に、御家族・御利用者様の求めているものを理解しようとコミュニケーションを取り、事業所としてはどのような対応ができるか職員全員で話し合っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、御家族の話をよく聴き、困っていること・不安なこと・分からないことなど明確化し、把握することによって信頼関係をより一層築く努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人家族の思い状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族やそれまで関わっていた御近所様などに面会に来て頂き、食事会などを通して安心感を持てるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみを日常生活の中からくみ取り、不安喜び、などを理解することに努め暮らしの中で分かち合い共に支える関係作りに留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、共通認識を持って、ご本人と一緒に支える支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族・御利用者様の思いを見極めながら外出・外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に御家族様を誘ったりしながらよりよい関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人・近所の方を行事に誘ったり、継続的な交流が出来るように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面作りを常に心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	毎年時期をみて当施設から退所された利用者様の所へ会いに行ったり、退所された方の家族様が気軽に立ち寄ってくださったり、毎年年賀状を送ったりとご本人だけでなく、家族様との関係も断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案時より、コミュニケーション、スキンシップ等図り、本人様の希望・要望・意向の把握に努めている。困難な場合は、家族様からの情報を元に問いかけ、表情等からくみ取る様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの配慮に努め、御利用者様が行いたい事について、一緒に関わり理解するに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	御利用者様に役割を持って頂き、自分の出来ることをお願いする。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が責任持ってご本人、家族様より情報を得、アセスメントをしてスタッフでケアカンファレンスをし、総合的に支援を行う計画を実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	御利用者・御家族様の思いや希望に添えるように、努力・支援を行っている。日々の様子が変わった時は、柔軟にプラン変更し、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ファイルにて各スタッフが確認でき、日々の変化等申し送りにて理解する方法を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	持てる力を活かし、自分らしくのんびり暮らすことが出来るように支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間行事計画を立て、公共機関・自治会・ボランティア等の協力を得て、利用者が楽しめるよう支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外食・美容院等地域の協力を得て本人の意向や希望を叶えている。		入所前まで利用していたケアマネージャーや、本人様の友人が利用している居宅のケアマネージャーにもっと交流できるように働きかけていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において、周辺情報・情報交換等協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・往診・訪問看護等実施。継続的な医療を受けるシステムを組んでいる。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医より適切な指示や助言を受けている。受診・往診あり。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護にて健康管理・体調変化について相談・助言をして頂いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携は取れている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御家族様の協力と理解、医療機関の協力があれば、終末期ケアも有り得る事をスタッフは共通認識している。実際、事例はあったが、誰一人反対するスタッフはなく、御家族、医療機関の協力のもと心からの看取りができた。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医に連絡し、指示を仰ぐ。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に施設訪問を行ったり、本人様、家族様と密に情報交換を行なうことを心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便表を作成し日々の変化を記録、変化ある時など申し送りにて体調変化・状況を把握し、支援を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴だが、昼夜問わず(21時～20時までの間)、本人様の希望があれば、調整を行い入浴ができる用意がある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御利用者様が、自由にTV観たり居眠りしたり希望に添った過ごし方をして頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション・おやつ時に昔のお話を出来るよう、声掛け・場面作りなどスタッフも一緒になって過ごしている。掃除・縫物など声掛けすると自発的にされ、役割を持たれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の意向もあり、全員ではないがお金を所持して頂き、買い物・美容院等自ら支払いされる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日にすぐと言う訳にはいかない事もあるが、個別のお墓参りや、個々の買い物に日時や、同行スタッフのシフトを組み、一緒に行くなどの支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出等、年間行事にも組み入れ施設全体で行動している。一部ではあるが御家族様と一緒に外泊されたりする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からかかった電話に楽しくゆっくり話せるように別室・椅子等心掛けています。暑中見舞い・年賀状には自分でなるべく記入して頂き、出している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に関係なく、いつでも訪問して頂き希望に応じて別室を用意している。声掛けしたり、コーヒー・お菓子等を用意しゆっくりくつろいで頂くようにしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の研修会に参加し、勉強会・会議等で皆さんと話し合っている。リスク会議においても常にリスクと拘束に関しての意識を高めている。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当事業所に施錠するという発想ははなからなく、居室にも鍵はない。玄関にはセンサーが設置してあり、いつでも自由に入り出来る様にしている。(夜20時～翌朝6時30分までは1人勤務になる為、防犯上施錠して呼び鈴対応している。)外出された時は、自分が納得されるまで同行して歩く。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1階・2階がある為移動された時は、時々見守りに行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ナイフなどの鋭利な物は職員がいない時は保管している。ハサミ等は、見守り・声掛けにて使用して頂くようにしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、毎日の申し送り時などを使って早期解決して、毎月のリスク会議で振り返り、話し合い、共通認識を持って最終確認し、記録している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時のマニュアルを作成し、常に対応出来る様にしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署、近隣住民、近くの交番、地域の消防団の協力を得て、年3回の避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様の生活を第一として御家族様に十分な説明をして理解を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の変化や異変は直ちに報告・観察し状況に応じて医師と密接な関係を取っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をファイル保存しいつでも全入居者様のお薬が理解出来る様にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘と不穏症状の関係はスタッフ間で共通認識している。毎朝、ヨーグルトを摂取して頂き、時には夕食にも摂取して頂く。歩行・体操等・毎日を動かして頂き、水分と野菜の繊維質を食べやすいように工夫して摂取していただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・嗽を確実にこなしている。定期的に口腔ケアの研修に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の嗜好を把握し味付けを変えたり、きざみやミキサーで形態も変えたりして個別対応し、食事量をチェックして記録に残している。水分は、食事やおやつ時に声をかけ、確実に摂取して頂けるように支援しているが、水分摂取量が少ない場合は個々にいつでも飲めるように支援し、アイトニックなどを用いて対応している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、マニュアルに添って行動シテイル。スタッフはインフルエンザ予防注射を受けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、ふきんなどはこまめに消毒し、取り替えるようにしている。残った食材は日時を記入後、冷蔵庫か冷凍庫に保存して申し送り早期に食べるようにしている。食品係りがいて定期的に冷蔵庫、冷凍庫の整理点検し、他スタッフに注意を促している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口にはベンチ、その横の庭にはテーブルやいすを置いて外で過ごすことがあり、通りを歩いている人が気軽に挨拶できる。玄関横にはイチゴを植えたのでイチゴが実る時期、往来する人とのコミュニケーションを楽しみにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂、台所が繋がり、常に入居者様が日常の生活を実感できるようにしている。行事ごとの置物(雛人形、五月人形、七夕、イルミネーション、正月飾りなど)を飾り、季節感を楽しんでいただくようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前、廊下、ホール等场所々に椅子やテーブルを配し思い々に過ごせるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	自分のダンスや時計、位牌、楽しんで弾いていた電子ピアノ など持ってきていただいて、なるべく家で過ごしていた時に 近いように心がけている。		今後、もっと利用者様の一番良かった時代を思い出して頂 けるような物がないか御家族と共に検討したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	各室に冷暖房機、湿温計、イオン空気清浄機を配し、空調し ている。乾燥期には夜間、各部屋にぬれタオルを掛けるなど 気配りする他、共有スペースには加湿器を配置し、トイレは 常時換気している。		
J				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	環境作りの研修に参加したりして個別のリスクを考え、手すり の配置や、座位を考慮した個別の椅子を使用していただい ている。	○	今後も引き続き、リスク会議でスタッフの意識を向上させ、 気付きから実践をしていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個別カンファレンスでスタッフ同士意見交換し、共通認識で 本人理解して、対処するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	入居者様の出入り口にベンチを置き、庭には菜園や花壇、 果樹があり全員が席に着くことが出来るテーブルと椅子を用 意して昼食やおやつを屋外で楽しんでいる。		